

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平中】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	毎時間ふりかえりの時間を設定したり、学びのポイント(じ・しゃ・く)を活用し、生徒自身にとって必要な課題や活動を自ら設定したり活用したことから、「全国学力・学習状況調査」および「さいたま市学習状況調査」の結果から考えても、生徒一人ひとりが基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができたといえる。しかし、未だに個人差も大きく見られる部分があるため、個別に必要な支援を講じていく必要がある。ICTを活用しながら協働学習を推進し、より生徒一人ひとりにとっての主体的・対話的で深い学びを目指し、「真の学力」を育みたい。
思考・判断・表現	知識・技能と同じく、両調査で全国平均および市平均を上回った。これからも学んだ知識・技能を活用する場面や、協働学習を通じて自分の考えを伝え合う場面を設定することで、思考・判断・表現の能力を高めていく。 一方、「さいたま市学習状況調査」の「生活習慣に関する調査」における「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」のそれぞれの項目で否定的な回答をしている生徒は、そうでない生徒に比べ平均正答率が大きく離れていることがわかった。家庭での基本的な生活習慣作りや、自己肯定感を高める学校での取組など、協力して学力向上を目指したい。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。 <指導上の課題> 前後の学習を繋げる時間、及び習得した知識・技能を活用する時間を十分確保できていない。	⇒ 授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定するとともに、生徒とともに必要感のある課題を設定したり、学んだ知識・技能を活用する場面を設定する【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 証明や説明、表現などの記述関係の問題に弱く無回答率が高い。 <指導上の課題> 生徒が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。また、評価する時間を確保できていない。	⇒ 活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。またICT機器を活用し、即時評価の頻度を増やし、指導に活かせるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくと思いますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】。

全国学力・学習状況調査 <小6・中3>(4月~5月)

⑤ 評価(※) 授業改善策の達成状況	
知識・技能	A 授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定した。また、学びのポイント(じ・しゃ・く)の視点に基づき、特に今年度は「自分で決める」に重点を置いた授業を計画的に行った。日々の授業やテストの結果を分析し、教員が生徒の課題を設定するとともに、生徒自身も、自分にとって必要のある課題を設定したり、学んだ知識・技能を活用する場面を設定した。
思考・判断・表現	A ICT機器を活用し、活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにした。また毎時間、授業の最後のふりかえりや、自己評価の時間を取った。評価の頻度を増やし、指導に活かせるようにした。 R6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくと思いますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全学年89%以上であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均を上回った。ただし細かく見てみると、国語の「我が国の言語文化に関する事項」、例としては「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選び」といった問題において全国平均および県平均を下回った。数学では証明問題において、全国平均は上回ったものの、県平均を下回った。小テストなどを通して、読解力向上を図る。
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回った。比較的正答率が低かったのは、数学の「点Cを線分AB上にとり、線分ABIについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選び」といった問題で課題が見られた。「なぜその答えになるか」など、思考の過程を可視化できるような学習活動を取り入れる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R6年度の全教科における「知識・技能」分野において、さいたま市平均を上回った。細かく見てみると、各教科において分析した結果は次のとおりである。 国語:「話すこと・聞くこと」…目的に応じて必要な資料を用いながら話すことができるかどうかをみる問題 等 数学:「データの活用」…相対度数、中央値、最頻値の意味を理解しているかをみる問題 等 社会:「歴史と対話」…年代など、資料から歴史に関わる情報を読み取ることができるかどうかをみる問題 等 理科:「地球を柱とする領域」…気象要素や示相化石について理解しているかどうかをみる問題 等
思考・判断・表現	R6年度の全教科における「思考・判断・表現」分野において、さいたま市平均を上回り、特に国語は良好であった。しかし、数学においては課題が見られた。 1年生では円グラフに表されている事柄を読み取る問題で正答率が低く、また与えられた表やグラフから必要な情報を読み取る問題で無回答率が高かった。2年生では投影図を見て判断する問題や、グラフ上の動点などを与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈する問題などで正答率が低かった。またヒストグラムやから必要な情報を読み取る問題や、変化の割合の理解度を図る問題では無回答率も高かった。学年や教科に関わらず、思考し判断する力を育てたい。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B 良好	変更なし
思考・判断・表現	B 良好	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)